

北海道
「蘭越町貝の館」20年のあゆみ
1991～2011

The 20 Years History of
Shellfish Museum of Rankoshi, Hokkaido, Japan.
1991 to 2011.

北海道蘭越町貝の館

Edited By
Shellfish Museum of Rankoshi, Hokkaido, Japan

2011

蘭 越 町

北海道
「蘭越町貝の館」20年のあゆみ
1991～2011

The 20 Years History of
Shellfish Museum of Rankoshi, Hokkaido, Japan.
1991 to 2011.



北海道蘭越町貝の館

Edited By
Shellfish Museum of Rankoshi, Hokkaido, Japan

2011

蘭 越 町

はじめに

蘭越町貝の館は、海との新たなかかわりを進めるシーサイドパーク港構想の一つとして、平成3年7月に開館しました。その開館に先がけ、全国の沿岸市町村へ貝の寄贈をお願いしたところ、およそ1,500種、30,000点もの貝類標本を寄せていただきました。

貝の館は、貝類標本の実物展示を主体に、貝類の生態から体のつくりまでを紹介する全国的にも珍しい貝類専門展示館となっています。また、平成6年には、海底のイメージのなかで海の回廊・貝の生活・岩礁ジオラマ・世界の貝分布・万華鏡「海と生物」などのコーナーを持つ第2貝の館を増設しました。

貝とのふれあいを通じ、全国の皆様との交流を目指す当館では、訪れるたびに新しい発見があるような展示の充実に努め、皆様の再度の来館をお待ちしております。

蘭越町長 宮谷内 留 雄

目次

第1章	貝の館 20年のあゆみ	1
	1. 設置目的	1
	2. 施設概要	1
	3. 沿革	3
第2章	貝の館標本寄贈市町村、企業・団体	5
	1. 標本をご寄贈していただいた市町村	5
	2. 標本をご寄贈していただいた企業・団体	8
第3章	「北の貝特別展示」目録	9
	1. 故高川金次氏と 「函館市立博物館」の「高川コレクション」について	9
	2. 展示目録	
	(1) 「蘭越町貝の館」所有「高川コレクション」	10
	(2) 「蘭越町貝の館」所有コレクション	12
	(3) 「函館市立博物館」より借用した「高川コレクション」	14
第4章	蘭越町沿岸に生息する貝類	17
	1. 北海道の日本海側における貝類研究の現状	17
	2. 蘭越町沿岸に生息する貝類	17
	多板綱	18
	腹足綱	19
	二枚貝綱	25
	3. 貝類から見た蘭越町沿岸の環境	30

第1章 貝の館 20年のあゆみ

1. 設置目的

蘭越町は、後志管内の羊蹄山麓7カ町村中、唯一海岸線（約4 Km）を有しており、海を生かした地域振興を進めています。「蘭越町貝の館」は、海との新たなかかわりを進める「シーサイドパークみなと構想」の一つとして平成3年7月に建設されました。

特に、海岸線を有する港地区は、古くはニシン漁で栄えた町でもあります。その後は人口が減少し、その活性化が課題とされていた地域であったことから、資源である海を生かし、海への限らないロマンを求める施設として設置しました。

2. 施設概要

蘭越町貝の館は「第1貝の館」と「第2貝の館」で構成され、総床面積は、609.6 m²に及びます。「第1貝の館」は平成3年7月29日、「第2貝の館」は平成6年10月29日に開館しました。当館の外観は二枚貝をイメージしており、入口の扉には、ハートガイをイメージしたアール・ヌーヴォー調のデザインのステンドグラスが埋め込まれています。

第1貝の館では、貝類の標本展示のほか、100インチの巨大スクリーンで見る3Dシアターや、選択ボタンによる大型モニターを用いた学習システムが特色です。また、中央に配置してある約5億年前に繁栄していたと考えられているチョッカクガイの全長5mに及ぶ等身大復元模型は、国内においては当館でしか見ることができません。第2貝の館は、海底をイメージした作りで、ジオラマ、標本展示のほか、生きた生物の展示も行っています。

展示標本は、平成2年1月に全国1,022の沿岸市町村（当時）に当館建設の趣旨を伝え、寄贈をお願いしましたところ、約400市町村から、地域の貝を約1,000種、30,000点を上回る標本が送られてきました。さらには、個人や会社等からもご協力いただき、展示してある1,500種、5,000点は、そのほとんどです。専門家からみれば、貴重な標本はそれほど展示されていないかもしれませんが、本町の趣旨に賛同し、心を込めて送っていただいたことが何にも替えがたい貴重なものであると考えております。

表1 蘭越町貝の館の概要

施設の名称 蘭越町貝の館		
住所	〒048-1241 蘭越町港町1401番地	
設置者	蘭越町（町長 宮谷内 留雄）	
	第1貝の館	第2貝の館
設計監理	(株) アトリエブク	(株) 創建社
展示工事	(株) 市村製作所	
構造	鉄筋コンクリート造	
建築面積	456.5 m ²	191.9 m ²
延床面積	417.7 m ²	191.9 m ²
総事業費	194,147千円	100,000千円



図1 「蘭越町貝の館」外観写真。屋根は建物の外壁とガラスによって分離され、宙に浮いているかのように見える。その外観は、二枚貝を想像させる。

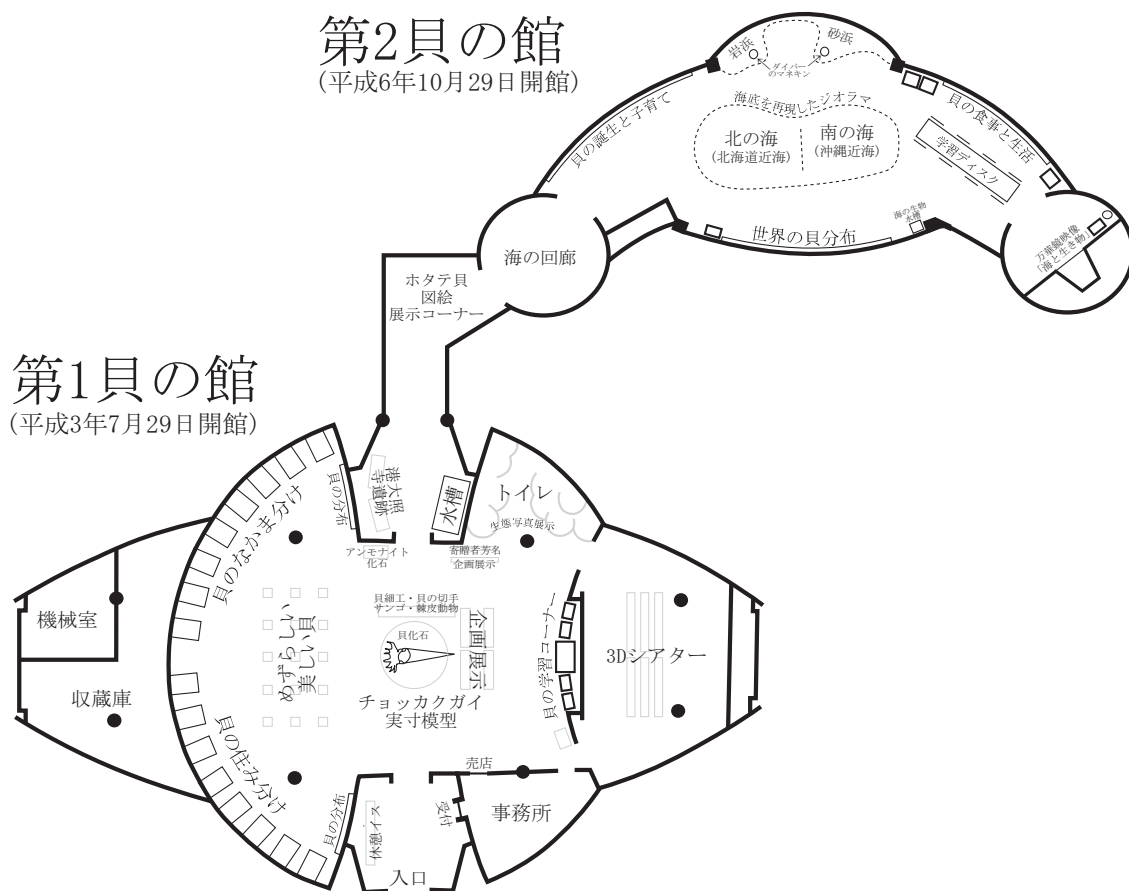


図2 「蘭越町貝の館」館内図。

3. 沿革

蘭越町貝の館は、平成2年12月に起工し、翌3年7月29日に開館しました。翌4年には、当館横に直売施設として「シェルプラザ・港」がオープンし、平成18年には「道の駅」に指定されました。平成6年10月には「第2貝の館」を増設し、施設の充実を図りましたが、入館者数は平成4年の26,960人をピークに減少しております。その要因には、当館へのアクセスの道路である国道229号の通行量が防災対策工事による長期間の通行規制や冷夏により、大幅に減少した期間があったことにもよりますが、展示のマンネリ化など、施設の魅力が薄れていったことが大きな要因と考えられます。

平成23年には、当館に学芸員を配置し、博物館として、ソフトウェア面での充実に努めるとともに、施設の改修工事を行っております。

表2 「蘭越町貝の館」20年間の沿革。

年	月 日	行 事
平成2年	12月 3日	貝の館起工式
平成3年	3月 16日	蘭越町貝の館条例 条例第2号公布
	7月 1日	蘭越町貝の館条例施行規則 規則第8号公布
	7月 29日	貝の館開館式
平成4年	7月 19日	蘭越町港直売センター「シェルプラザ・港」落成式
平成6年	10月 29日	第二貝の館オープン
平成8年		開館5周年記念：特別優待券送付
平成13年	7月 20日	開館10周年記念：ふるさと貝絵コンテスト
平成20年		冬期間（11月1日から3月31日）は休館
平成23年	4月	学芸員の配置
	4月 28日	蘭越町貝の館ホームページ完成 企画展示「新種の生物を発見したら」開催 （6月28日まで）
	5月 3日	ゴールデンウイーク特別企画「タッチプール」開催 （5月4日まで）
	7月	屋根の改修工事、ボイラー改修工事
	7月 23日	開館20周年記念イベント「北の貝類特別展示」開催 （8月28日まで）

第2章 貝の館標本寄贈市町村、企業・団体

「蘭越町貝の館」に標本を寄贈していただいた市町村を紹介します。市町村名につきましては、寄贈当時の名称で表記しております。

平成23年度6月現在、寄贈いただきました市町村は約400に及び、また、個人や企業・団体の方を合わせて約150件から寄贈していただきましたが、個人名につきましては、個人情報保護のため、本誌上での公表は控えさせていただきました。当館へご協力頂きました方々には、改めて、お礼申し上げます。



図1 「蘭越町貝の館」に標本を寄贈いただいた市町村マップ。※寄贈当時と、合併等で市町村名が変わった場所につきましては、地図上での表記はいたしていません。図はGoogleマップを用いて作図。

1. 標本を寄贈していただいた市町村

北海道 厚別町、網走市、石狩市、浦幌町、江差町、枝幸町、恵山町、えりも町、長万部町、音別町、上磯町、興部町、小清水町、様似町、猿払村、鹿部町、斜里町、瀬棚町、大樹町、大成町、天塩町、戸井町、常呂町、苫小牧市、泊村、豊浦町、豊頃町、豊富町、新冠町、根室市、登別市、函館市、浜頓別町、浜中町、浜益村、広尾町、福島町、別海町、南茅部町、紋別市、八雲町、湧別町、羅臼町、礼文町

- 青森県 青森市、今別町、階上町、木造村、佐井村、八戸市、東通村、百石町、平内町、三沢市
- 岩手県 田野畑村、野田村、宮古市、三陸町、田老町、山田町、岩泉町
- 宮城県 石巻市、雄勝町、女川町、名取市、本吉町、山元町
- 秋田県 男鹿市、仁賀保町、能代市、八森町
- 山形県 温海町、新地町、檜葉町、原町市、広野町、遊佐町、浪江町
- 茨城県 大津村、大野村、鹿島町、神栖市、十玉町、東海村、波崎町、日立市
- 千葉県 市川市、一宮町、浦安市、大網白里町、鴨川市、白子町、白浜村、館山市、銚子市、長生村、天津子湊市、富浦町、富津市、成東町、野栄町、蓮沼村、八日市場市、光村、船橋市、岬町、横芝町、和田町
- 東京都 大田区、小笠原村、神津島村、新島本村
- 神奈川県 小田原市、鎌倉市、茅ヶ崎市、藤沢市、横須賀市、横浜市
- 新潟県 糸魚川市、岩室村、柿崎町、小木町、佐和田町、上越市、聖籠町、大潟町、出雲崎町、中条町、名立町、新潟市、巻町、村上市、紫雲寺町
- 富山県 朝日町、氷見市、富来町、入善町
- 石川県 内浦町、内灘町、志賀町、高松町、珠洲市、富山市、松任町
- 福井県 芦原町、敦賀市、河野村、越前町
- 静岡県 相良町、浅羽町、蒲原町、御前崎市、湖西市、下田市、清水町、竜洋町、戸田村、浜岡町、浜松市、榛原町、盤田市、東伊豆町、吉田町
- 愛知県 赤羽根町、渥美市、一色村、御津町、高浜市、知多市、東海市、幡豆町、東浦町、美浜町、碧南市、南知多町、武豊町、吉良町
- 三重県 阿児町、伊勢市、磯部市、鷺殿村、河芸町、紀伊長島町、木曾崎村、熊野市、桑名市、三雲町、鈴鹿市、津市、鳥羽市、長島町、楠町、浜島町、南勢町、南島町、四日市市
- 京都府 舞鶴市
- 大阪府 泉大津市、泉佐野市、岸和田市
- 兵庫県 明石市、芦屋市、淡路市、洲本市、相生市、津名町、播磨町、姫路市
- 和歌山県 有田市、下津町、新宮市、すさみ町、那智勝浦町、日高町、南部町
- 鳥取県 青谷町、気高町、境港市、鳥取市、泊村
- 島根県 三隅町、鹿島町、島根町、大社町、西郷町、八東町、益田市、松江市
- 岡山県 玉野市、日生町、邑久町
- 広島県 因島市、江田島市、沖美町、川尻町、下蒲刈町、広島市、福山市、安浦町
- 山口県 阿武町、岩国市、大島市、上関町、下関市、須佐町、瀬戸田町、平生町、豊浦町、久賀町、防府市、山口市

- 徳島県 海部町、小松島市、下松市、由岐町
- 香川県 志度町、坂出市、三野町、直島町、土庄町、松茂町、丸亀市
- 愛媛県 伊方町、今治市、上蒲町、宇和島市、大野原町、三崎町、保内町、津島町、生名村、西海町、宮窪町、弓削町、吉海町
- 高知県 大方町、高知市、須崎市、中土佐町、中村市、春野市、宿毛市
- 福岡県 行橋市、大島村、椎田町、志摩町、大牟田市、豊前市、二丈町、福岡市、柳川市、大和町、吉富町
- 佐賀県 芦刈町、鹿島市、唐津市、玄海町、白石町、太良町、呼子町
- 長崎県 有家町、有明町、石田町、上対馬町、大島町、大島村、多良見町、加津佐町、口之浦町、小値賀町、琴海町、崎戸町、佐々町、佐世保市、鹿町町、小佐々町、小長井町、瑞穂町、高来町、玉之浦町、千々石町、富江町、長与町、野母崎町、福島町、南有馬町
- 熊本県 荒尾市、有明市、宇土市、牛深市、御所浦町、新和町、竜北町、津奈木町、不知火町、本渡市、松島町、苓北町
- 大分県 宇佐市、臼杵市、大分市、蒲江町、国東町、佐賀関町、佐伯市、豊後高田市、中津市、別府市
- 宮崎県 北浦町、高鍋町、延岡市、日南市、日向市
- 鹿児島県 有明町、いちき串木野市、内之浦町、大根占町、笠利町、加世田市、喜界町、佐多町、鹿島村、知名町、十島村、大崎町、長島町、知覧町、徳之島町、中種子町、隼人町、東市来町、日吉町、吹上町、枕崎市、山川町、指宿市、和泊町
- 沖縄県 与那城村、伊江村、沖縄市、恩納村、金武町、蒲添市、北谷町、北大東村、北中城村、具志川市、具志頭村、具志川村、国頭村、佐敷町、下地町、平良市、玉城村、中城村、名護市、那覇市、宜野湾市、本部町、南大東村

※市町村名につきましては当時の名前で示しています。

2. 標本をご寄贈していただいた企業・団体

明石文化博物館、茅ヶ崎文化資料館、佐伊津小学校、すさみ町商工会青年部、鳥羽水族館、福岡市立少年文化会館、芦屋市教育研究所、浦添宜野湾漁業協同組合、益田市漁業協同組合 種苗センター、茅ヶ崎市文化資料館、館山市立博物館、岩国市立科学センター、喜界町立坂嶺小学校、紀伊長島郷土資料館、玉城村漁業組合、桂浜貝類展示館シェルパレス、広島市農林水産振興センター水産部、高浜市郷土資料館、根室市歴史と自然の資料館、佐多町立大泊小学校、三井住友建設株式会社 北海道支店、三之瀬小学校、市川市立市川自然博物館、鹿児島県立博物館、十勝支庁十勝地区水産技術普及指導所、上越市水族博物館、西松建設 札幌支店、静岡県水産技術研究所 伊豆分場、静岡県水産技術研究所 浜名分場、千代田化工建設株式会社、村上貝類研究所、苫小牧市博物館、日立市郷土博物館、柏崎市立博物館、八浜小学校、姫路市立科学館、富山県栽培漁業センター、富山市科学文化センター、フィリピン共和国大使館、福岡市立少年科学文化会館、碧南海浜水族館、本渡市立佐伊津小学校、弥永北海道博物館、湧別漁業協同組合、檜山北部地区水産技術普及所

※企業・団体名につきましては当時の名前で示しています。

第3章 「北の貝特別展示」目録

「蘭越町貝の館」は、日本で最も北に位置する貝類博物館です。当館の20周年記念特別展示では、その地理的条件から、「北の貝特別展示」を行うこととしました。

北の貝類コレクションでは日本最大と言われている故高川金次氏(函館市)のコレクションのほとんどは「函館市立博物館」へ寄贈されましたが、生前、その標本の一部を当館へも寄贈していただきました。

今回の「北の貝特別展示」は、当館に寄贈された故高川氏のコレクションと、「函館市立博物館」で管理・保管されている故高川氏のコレクションを借用し、実現しました。

1. 故高川金次氏と「函館市立博物館」 の「高川コレクション」について

故高川金次氏は、昭和7年、石川県河北郡内灘町に生まれ、若くして函館に移り漁船の甲板員の仕事をしていたが、将来性のある通信士を勧められ、すぐにこの資格を取得するため、当時の札幌高等電波学校に入学し、同校の一期生として卒業しました。その後、折から再開された北洋漁業鮭流し網船の通信士として勤務することとなりました。この北洋での操業中、2回遭難しました。偶然救助された船に縁あって、昭和35年から救助された船に乗ることになりました。この船で沿海州方面に操業していた時、漁網についてくるホタテガイとアラスカニシキの差異について興味を持ち、仕事の傍ら、これらの貝類について調べ始めたのが貝類標本を収集するきっかけとなりました。その後、ベーリング海方面に転進し、当時、貝類研究者の間でも知られていなかったワダツミウリガイ、メロンボラ、タテゴトナシボラやホクトボラなどを採集しました。昭和38年頃になって、日本貝類学会に入会していた関係もあって、一躍、故高川氏の名前が関係者の間で知られるようになりました。極寒の北の海を回る漁船での仕事の傍ら、数々の貴重な貝類を採集したことは、故高川氏の北の貝類に対する並みならぬ愛情と地道な努力の賜物である。

故高川氏は採集した標本を、函館の自宅に持ち帰り保管していました。しかし、昭和44年、自宅の新築工事により標本を移動する必要に迫られました。そこで、以前から「この標本を公共的な機関に寄贈し広く公開してもらえたら」と考えていたことと、当時、市立函館博物館長である故石川政治氏が日本貝類学会評議委員であったことを知り、昭和44年に初めて「市立函館博物館」を訪れた。昭和44年8月7日付北海道新聞の記事によれば、「学者が数十万円の費用をかけて調査しても、採れるのは百個くらいだ。高川さんは立場に恵まれていたとはいえ、何十年分の仕事を十年間でやったことになる。文献には掲載されているが、標本は国内に無いような種類がいくらかもあるので驚いてしまった。現在博物館にある北洋の貝は数十種だが、これで国立科学博物館をしのぐコ

レクションとなりそう。……(後略)」と当時のことが書かれており、故石川氏がどのような気持ちで高川コレクションに接したかがよく分かる。故石川氏が貝類の専門家であることと、「寄贈してほしい」という熱意から、故高川氏はすぐにコレクションの寄贈をその場で決め、こうして高川コレクションが市立函館博物館に収蔵されることとなりました。その後、高川氏は1994年9月に急逝された。

(尾崎, 1993) より

2. 展示目録

展示目録は、展示標本の和名、学名、産地及び採集日の順で記しています。

(1) 「蘭越町貝の館」所有「高川コレクション」

故高川氏の貝類標本コレクションは、生前、その一部を「市立函館博物館」だけではなく、「蘭越町貝の館」へも寄贈されました。当館所有の「高川コレクション」として、今回の特別企画展示で、その一部を展示いたしました。

<p>軟体動物門 Phylum MOLLUSCA LINNAEUS, 1758 腹足綱 Class GASTROPODA CUVIER, 1797 新腹足目 Order NEOGASTROPODA WENZ, 1929 エゾバイ科 Family BUCCINIDAE RAFINESQUE, 1815</p>	<p>1986年9月8日</p> <p>5. アニワシワバイ <i>Buccinum polium</i> Dall, 1907 北海道 稚内市 宗谷岬東部沖 1975年9月11日</p> <p>6. ヤワハダバイ <i>Buccinum hyperum</i> Dall, 1919 北海道 鹿部町沖 (噴火湾湾口部) 採集日不詳</p> <p>7. フーカエゾバイ <i>Buccinum strigillatum fucanum</i> Dall, 1907 サハリン島東岸 北知床岬南南東沖 水深165m 1975年8月5日</p> <p>8. タカガワバイ <i>Buccinum takagawai</i> Habe & Ito, 1972 北海道 紋別市東部沖 水深230m 1979年7月2日</p> <p>9. ネジヌキバイ <i>Japelion hirasei</i> (Pilsbry, 1901) 北海道 登別市沖 水深320m 1990年5月17日</p> <p>10. オオカラフトバイ</p>
<p>1. ツバイ <i>Buccinum tsubai</i> Kuroda in Teramachi, 1933 北海道 礼文島西部沖 礼文堆西側 水深400m 1986年10月12日</p> <p>2. マツマエバイ <i>Buccinum habui</i> Tiba, 1984 北海道 松前町小島沖 水深360~480m 1982年11月19日</p> <p>3. メンコイバイ <i>Buccinum limnoideum</i> Dall, 1907 北海道 松前町沖 水深70m 1991年4月25日</p> <p>4. トウダカバイ <i>Reticubuccinum acutispiratum</i> (Dall, 1907) 北海道 稚内市 宗谷岬東部沖 水深120m</p>	

- Buccinum verkruzeni* Kobelt, 1883
サハリン島東岸 北知床半島東部沖
水深 246 m
1973 年 9 月 10 日
11. フクレエゾバイ
Buccinum fukureum Habe & Ito, 1976
サハリン島東岸 皆別岬北東沖
水深 206 m
1975 年 10 月 23 日
12. フクレエゾバイ
Buccinum fukureum Habe & Ito, 1976
サハリン島東岸 北知床岬 南東沖合
1975 年 10 月 7 日
13. オオカラフトバイ
Buccinum verkruzeni Kobelt, 1883
サハリン島西岸 久春内沖 水深 45 m
1972 年 4 月 9 日
14. クビレバイ
Buccinum opisthoplectum Dall, 1907
北海道稚内市 宗谷岬沖 水深 51 m
1982 年 9 月 9 日
15. ウネエゾボラ
Neptunea lyrata lyrata Gmelin, 1789
ベーリング海
採集日不詳
16. ロシアバイ
Buccinum rossicum Dall, 1907
サハリン島東岸 落合岬沖 水深 95 m
1971 年 12 月 14 日
17. イジケシライトマキバイ
Buccinum zelotes Dall, 1907
北海道礼文島 金田沖 北北東 18 マイル
沖 水深 160 m
1980 年 8 月 10 日
18. オニエゾバイ
Buccinum ectomocyma Dall, 1907
北海道 鹿部町沖 (内浦湾湾口部)
採集日不詳
19. イジケシライトマキバイ
Buccinum zelotes Dall, 1907
北海道 松前町 清部沖
水深 250~300 m
1992 年 2 月 19 日
20. シライトマキバイ
Buccinum isaotakii (Kira, 1959)
千葉県 銚子沖
1993 年 5 月 24 日
21. ミズタニバイ
Buccinum mizutanii Habe & Ito, 1970
サハリン島東岸 愛朗岬東岸沖
水深 220 m
1975 年 10 月 1 日
22. キジビキカミオボラ
Volutopsius furukawai Oyama, 1951
北海道 稚内市 宗谷岬東部沖
1986 年 4 月 20 日
23. ミヤウチバイ
Buccinum miyauchii Azuma, 1972
北海道 利尻島西岸沖 水深 800 m
1978 年 7 月 30 日
24. ヤワハダバイ
Buccinum lyperum Dall, 1919
サハリン島 北知床岬南南東沖
水深 180 m
1975 年 9 月 26 日
25. マレエゾバイ
Buccinum rarusum Tiba, 1984
採集場所不詳 (市場にて購入)
1994 年 6 月 10 日
26. ロジウムバイ
Buccinum rhodium Dall, 1919
サハリン島 北知床岬南南西沖
水深 180 m
1975 年 9 月 26 日

(2) 「蘭越町貝の館」 所有コレクション

「蘭越町貝の館」が所有する貝類標本のうち、北の海を代表するような種類を選び、展示いたしました。特に、ナガモスソガイやウスカワモスソガイは、北海道北西部の日本海側に分布の中心があり、代表という名にふさわしい種類です。

軟体動物門

Phylum MOLLUSCA LINNAEUS, 1758

腹足綱

Class GASTROPODA CUVIER, 1797

古腹足目

Order VETIGASTROPODA

ALVINI-PLAWEN, 1980

スカシガイ科

Family FISSURELLIDAE FLEMING, 1822

1. コシタカサルアワビ
Tugalina (Scelidotoma) vadososinuata
(Yokoyama, 1922)
北海道 木古内湾 水深 15 m
2002年9月13日

盤足目

Order DISCOPODA FISCHER, 1884

キリガイダマシ科

Family TURRITELLIDAE LOVEN, 1847

2. ユキヒメニナ
Tachyrhynchus yanamii (Yokoyama, 1926)
北海道 噴火湾中央部 水深 60 m
2004年11月20日
3. ユキノキリニナ
Tachyrhynchus septemcostatus Golikov,
1986
北海道 噴火湾中央部 水深 60 m
2004年11月20日

新腹足目

Order NEOGASTROPODA WENZ, 1929

エゾバイ科

Family BUCCINIDAE RAFINESQUE, 1815

4. マエヒラエゾバイ
Buccinum maehirai Tiba, 1980
北海道 釧路町沖
1992年10月
5. オサガワバイ
Buccinum osagawai Habe & Ito, 1968
北海道 羅臼町沖 水深 600 m

1982年8月

6. ヒレエゾボラ
Neptunea varicifera Dall, 1907
オホーツク海 水深 200 m
採集日不詳
7. ワダチバイ
Ancistrolepis grammatus (Dall, 1907)
北海道 羅臼町沖 水深 300 m
1982年8月
8. キヌカツギバイ
Buccinum kinukatsugi Habe & Ito, 1968
北海道 羅臼町沖 水深 600 m
1982年8月
9. ラウスバイ
Buccinum rausicum Shikama, 1952
北海道 羅臼町沖 水深 600 m
1982年8月
10. シレトコバイ
Buccinum shiretokoensis Habe & Ito, 1976
北海道 羅臼町 相泊沖 水深 600 m
採集日不詳
11. ナガバイ
Beringius (Neoberingius) polynematicus
Pilsbry, 1907
北海道 登別市沖 水深 25 m
1990年5月17日
12. ヒメナガバイ
Beringius (Neoberingius) frielei (Dall, 1895)
ロシア国 カムチャッカ沖
採集日不詳
13. セイタカエゾボラ
Neptunea elegantula Ito & Habe, 1965
島根県 浜田沖 水深 200~250 m
1998年5月29日
14. トウダカバイ

- Reticubuccinum acutispiratum* (Dall, 1907)
島根県 但馬沖 水深 250~350 m
1999年3月2日
15. アキタバイ
Buccinum senshumaruae (Kosuge & Ishiyama, 1971)
秋田県 男鹿半島沖
1971年10月
16. シェプカエゾバイ
Buccinum (Thysanobuccinum) pilosum
Golikov & Gulbin, 1977
利尻島 仙法志沖 水深 120 m
2002年7月26日
17. ホソジュズカケバイ
Buccinum verrucosum Tiba, 1980
北海道 択捉島沖
1993年9月
18. ヒラノイトマキツムバイ
Colus hiranoi Shikama, 1962
北海道 噴火湾湾口部沖
1998年6月30日
19. ウリザネバイ
Buccinum chishimana nux (Habe & Ito, 1965)
千島列島
1994年8月
20. タマゴバイ
Liomesus ooides (Middendoff, 1848)
北海道 登別沖 水深 360 m
1980年5月15日
21. ミギマキタテゴトナシボラ
Pyrulofusus dexius japonicus (Dall, 1907)
北海道 新ひだか町 三石漁港
1987年6月15日
22. ナガモスソガイ
Volutharpa nipponkaiensis (Habe & Ito, 1980)
北海道 札文島 金田沖 水深 145 m
2003年9月2日
23. ウスカワモスソガイ
Volutharpa limnaeiformis (Habe & Ito, 1980)
北海道 武蔵堆 水深 45~50 m
2003年7月5日
- 二枚貝綱
Class BIVALVIA LINNAEUS, 1758
クルミガイ目
Order NUCULOIDA DALL, 1889
クルミガイ科
Family NUCULIDAE GRAY, 1824
24. オオキララガイ
Acila divaricata (Hinds, 1843)
北海道 噴火湾中央部 水深 94 m
2004年11月19日
- フネガイ目
Order ARCOIDA STOLICZKA, 1871
シワロウバイ科
Family NUCULANIDAE H. ADAMS & A. ADAMS, 1858
25. トヤマソデガイ
Portlandia toyamaensis (Kuroda, 1929)
北海道 石狩市 雄冬岬沖 水深 320 m
2011年6月15日
26. フネソデガイ
Megayoldia thraciaeformis (Storer, 1838)
北海道 噴火湾中央部 水深 60 m
2004年11月20日
- マルスダレガイ目
Order VENEROIDA H. & A. ADAMS, 1856
ザルガイ科
Family CARDIIDAE LAMARCK, 1809
27. コケライシカゲガイ
Clinocardium ciliatum (Fabricius, 1780)
北海道 噴火湾中央部 水深 60 m
2004年11月20日
- ウミタケモドキ目
Order PHOLADOMYOIDA NEWELL, 1965
リュウグウハゴロモガイ科
Family PERIPLOMATIDAE Dall, 1895
28. リュウグウハゴロモ
Periploma (Takashia) plune Ozaki, 1958
北海道 石狩市 雄冬岬沖 水深 320 m
2011年6月30日
- オトヒメゴコロガイ科
Family VERTICORDIIDAE Stoliczka, 1870
29. ニッポンオトヒメゴコロ

Halicardia nipponensis Okutani, 1957
宮城県 金華山沖 水深 850-900 m
2008 年 4 月

■ シャクシガイ科

Family CUSPIDARIIDAE DALL, 1886

30. ウシオシャクシガイ
Rhinoclama (Rhinoclama) tsugaruensis
Yamazaki, 2008
北海道 木古内湾 水深 25 m
2008 年 3 月 23 日

31. アツシャクシガイ
Cuspidaria (Nordoneaera) trossetes Dall,
1925
北海道 石狩市 雄冬岬沖 水深 320 m
2011 年 6 月 30 日

32. テングシャクシガイ
Cardiomya behringensis Leach, 1883
北海道 石狩市 雄冬岬沖 水深 320 m
2011 年 6 月 30 日

(3) 「函館市立博物館」より借用した「高川コレクション」

函館市立博物館が所有する「高川貝類コレクション」の中から、特別企画展示に相応しい種類を選び、展示いたしました。オーツクイトカケ、ホッキョクイトカケやタテゴトナシボラ等は、日本の排他的領海内 (EEZ) で採集される例は少なく、特に珍重されている種類です。

■ 軟体動物門

Phylum MOLLUSCA LINNAEUS, 1758

■ 腹足綱

Class GASTROPODA CUVIER, 1797

■ 翼舌目

Order PTENOGLOSSA GRAY, 1853

■ イトカケガイ科

Family EPITONIIDAE BERRY, 1910

1. オホーツクイトカケ
Acirsa (Acirsa) ochotensis (Middendorff, 1849)
サハリン島 北知床東岸
水深 210 m
1974 年 6 月 10 日
2. ホッキョクイトカケ
Acirsa ochotensis (Middendorff, 1848)
北海道 宗谷岬東岸 24 マイル沖 水深 75 m
1981 年 9 月 13 日

■ 盤足目

Order DISCOPODA FISCHER, 1884

■ カツラガイ科

Family CAPULIDAE FLEMING, 1882

3. アイヌチドリ
Trichamathina buccinula (Golikov & Scarlato, 1967)

ロシア国 沿海州沖 水深 220 m
1971 年 12 月 3 日

■ ハナズトガイ科

■ Velutinidae

4. キヌカツギカツラガイ
Piliscus commodus (Middendorff, 1851)
サハリン島東岸 水深 250 m
1972 年 7 月 30 日

■ 新腹足目

Order NEOGASTROPODA WENZ, 1929

■ アッキガイ科

Family MURICIDAE RAFINESQUE, 1815

5. デールツノオリイレ
Nodulotrophon dalli (Kobelt, 1878)
サハリン島 アニワ湾
水深 105 m 泥底
1972 年 11 月 16 日

■ エゾバイ科

Family BUCCINIDAE RAFINESQUE, 1815

6. メロンボラ
Pyrolofusus melonis Dall, 1891
ベーリング海 水深 120 m
1974 年 3 月 24 日

7. タマゴナワボラ
Iphinopsis kroyeri Philippi, 1849
北海道 稚内市沖
1982年9月16日
8. タテゴトナシボラ
Pyrulofusus deformis harpa (Morch, 1858)
ベーリング海 水深 420 m
1963年4月8日
9. ヒレエゾボラ
Neptunea varicifera Dall, 1907
サハリン島 中知床沖
水深 260 m 泥底
1977年10月15日
10. フトウネバイ
Buccinum polium Dall, 1907
サハリン島東岸 水深 250 m
1972年7月30日
11. イシカワヤゲンバイ
Clinopegma ishikawai Tiba, 1974
サハリン島 中知床東岸
水深 700 m
1975年5月20日
12. カワムラワダチ
Ancistrolepis kawamurai (Habe & Ito, 1972)
北海道 網走市沖 水深 760 m
1971年6月18日
13. ヒモカケヤゲンバイ
Clinopegma unicum polygrammum
北海道 礼文堆西側 水深 400 m
1986年10月12日
14. スハダヤゲンバイ
Neancistrolepis glabra (Habe & Ito, 1973)
北海道 網走市沖 北見大和堆 水深 450 m
1973年
15. アニワバイ
Buccinum aniwanum (Dall, 1907)
ロシア国 沿海州沖 水深 140 m
1943年11月1日
16. オオシワバイ
Plicifusus kroeyeri (Moller, 1842)
ロシア国 サハリン州北部東岸 水深 124 m
1974年7月2日
17. タカガワバイ
Buccinum takagawai Habe & Ito, 1972
サハリン島 多来加湾
採集日不詳
18. チカオヤゲンバイ
Clinopegma chikaoi Tiba, 1968
サハリン島東岸 皆別岬沖
水深 740 m
1970年6月18日
19. キタノモロハバイ
Clinopegma borealis Tiba, 1969
ベーリング海 水深 450 m
1963年7月29日
20. オホーツクヤゲンバイ
Clinopegma okhotensis (Dall, 1925)
サハリン島 北知床東岸
水深 209 m
1976年8月8日
21. オオモロハバイ
Clinopegma magnum (Dall, 1895)
北海道 稚内市 宗谷岬東岸沖 水深 116 m
1987年1月18日
22. ヒモマキバイ
Colus (Aulacofusus) spitzbergensis (Reeve, 1855)
サハリン島 北知床岬南南東沖 水深 160 m
1984年8月18日
23. カドバリバイ
Buccinum graciale parallelum Dall, 1918
サハリン島東岸 水深 125 m
1974年9月7日
24. ユウビツムバイ
Colus gracilis (da Costa, 1778)
ベーリング海 水深 200 m
1967年9月20日
- クダマキガイ科**
Family TURRIDAE SWAINSON, 1840
25. タラチヤゲンイグチ
Aforia diomedea Bartsch, 1945
ベーリング海
採集日不詳
26. サビヤゲンイグチ
Aforia insignis (Jeffreys, 1873)

北海道 北見市 枝幸沖 水深 214 m
1979年4月22日

サハリン島西岸 鶴巣沖 水深 245 m
1971年11月23日

二枚貝綱

Class BIVALVIA LINNAEUS, 1758

キヌタレガイ目

Order SOLEMYOIDA Dall, 1889

キヌタレガイ科

Family SOLEMYIDAE J. E. Gray, 1840

27. スエヒロキヌタレガイ

Acharax johnsoni (Dall, 1891)

銚子沖 水深 200 m

1973年8月10日

28. チバキヌタレ

Petrasma sp.

ベーリング海 水深 500 m

1963年7月30日

29. アブラキヌタレ

Petrasma pervernicosa (Kuroda, 1948)

サハリン島 北知床岬約 25 マイル沖

水深 96 m

1972年4月17日

マルスダレガイ目

Order VENEROIDA H. & A. ADAMS, 1856

ハナシガイ科

Family THYASIRIDAE DALL, 1900

30. オウナガイ

Conchocele bisecta (Conrad, 1849)

オオノガイ目

Order MYOIDA GOLDFUSS, 1820

キヌマトイガイ科

Family HIATELLIDAE GRAY, 1824

31. ヤツシマチシマガイ

Panomya beringiana Dall, 1916

北海道 紋別市沖 水深 136 m 泥底

1983年4月10日

32. チシマガイ

Panomya arctica (Lamarck, 1819)

オホーツク海

採集日不詳

33. アクビチシマガイ

Panomya ampla Dall, 1898

産地不詳

採集日不詳

34. ヤツシマチシマガイ

Panomya beringiana Dall, 1916

ベーリング海

採集日不詳

35. シリキレチシマガイ

Panomya nipponica Nomura & Hatai, 1935

北海道 紋別市沖 水深 136 m 泥底

1983年4月10日

引用文献

尾崎 渉. 1993. 館蔵貝類標本について 市立函館博物館所蔵の貝類標本「高川コレクション」を中心に. 函館市立博物館友の会研究紀要, 3: 33-49.

第4章 蘭越町沿岸で見られる貝類

山崎 友資

(蘭越町貝の館学芸員: yamazaki_tomoyasu@town.rankoshi.lg.jp)

1. 北海道の日本海側における貝類研究の現状

北海道西岸の浅海域における貝類の研究は、太平洋側やオホーツク海側と比較して乏しく、まとまった報告は北海道大学忍路臨海実験所付近（能島，1937）、小樽市沿岸（伊藤，1987）に限られます。したがって、北海道西部における貝類の生物地理は、知られていない部分が多い。また、近年になって、分類学的に混乱していたグループが整理され、これまで構築されてきたリストを再検討する必要性が課題として残っています。

2. 蘭越町沿岸に生息する貝類

蘭越町は、南は尻別岬、北はセバチ鼻に挟まれた、日本海に面する約4 Kmの海岸線を所有しています。海岸線はごく僅かですが、沿岸地形は、平磯地帯、転石地帯及び砂浜地帯と多様で、生物相はそれぞれの場所で、大きく変わります。例えば、平磯や転石地帯など基質の移動が比較的少ない場所であれば、基質に足で付着する生物や、基質に穴を空けて棲息する生物が見られます。一方、砂地では、足で砂に潜って生活する種類が多く見られます。

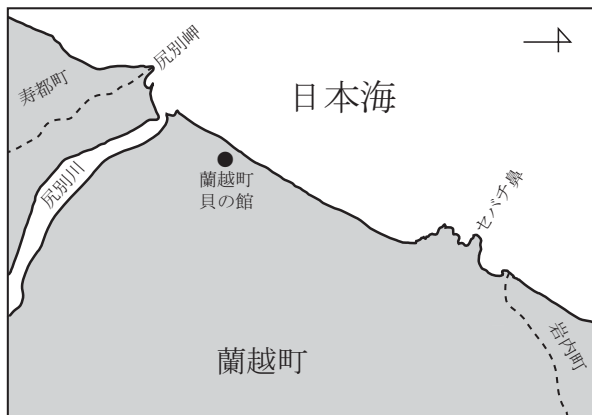


図1 蘭越町が所有する海岸線を示す。蘭越町の海岸は、日本海に面し、南側は寿都町、北側は岩内町に挟まれます。尻別岬の北側には、清流尻別川の養分豊富な水が日本海へ注ぎます。

蘭越町沿岸に生息する貝類について、平成23年6月～7月までの間に、13日間調査しました。調査場所は、尻別岬、「蘭越町貝の館」前浜及びセバチ鼻付近としました（図1）。調査の結果、以下に図示する合計84種類の貝類を確認しました（Plate 1-7）。僅か4 kmという狭い範囲から、多くの種類が確認されたのは、沿岸の地形が多様なこと、対馬暖流の影響を受けて、冷たい海を好む寒流系種だけではなく、暖かい海を好む暖流系種の両方が分布していることが一要因と考えられました。



キタサメハダヒザラガイ *L. (L.) hakodadensis*
 撮影: 2011年7月14日 蘭越町セバチ鼻



カギツメヒザラガイ *D. curvata*
 撮影: 2011年6月27日 蘭越町セバチ鼻



アオスジヒザラガイ *T. undocaerulea*
 撮影: 2011年7月14日 蘭越町セバチ鼻



オオヒゲヒザラガイ *M. seta*
 撮影: 2011年6月9日 蘭越町セバチ鼻

新ヒザラガイ目 Neoloricata

軟体動物門

MOLLUSCA

多板綱

Polyplacophora

新ヒザラガイ目

Neoloricata

サメハダヒザラガイ科

Leptochitonidae

1. キタサメハダヒザラガイ

Leptochiton (Leptochiton) hakodatensis Thiele, 1909
肉帯はこの類としては広く、表面は小棘で覆われる。殻板はもろく、壊れやすい。殻色の変異は他種と比べて少なく、ほとんどが白ないしクリーム色になる場合が多い。転石裏面で見られる。

2. カギヅメヒザラガイ

Deshayesiella curvata (Pilsbry, 1892)
肉帯は広く、表面は長い小棘に覆われる。殻色は茶褐色で、周縁部は白ないしクリーム色となる。潮下帯の転石の窪みで見られる。

ウスヒザラガイ科

Ischnochitonidae

3. セワケヒザラガイ

Schizoplax brandtii (Middendorff, 1847)
肉帯は狭く、殻板の中央に亀裂が走ることから、他の種類と容易に区別できる。貝殻表面に光沢は無く、色彩、模様のパターンは変異に富む。潮下帯以深の転石表面で見られる。

4. ヒメマダラヒザラガイ

Tonicella zotini Yakovleva, 1952
肉帯の模様はモザイク状で不明瞭。潮下帯以深の転石裏面で見られる。

5. アオスジヒザラガイ

Tonicella undocaerulea Sirenko, 1973
肉帯表面には、幅が不均一な帯状の模様が周縁部に向かって走る。生時、殻板表面に青い筋が走るが、液浸標本においては、青い筋は消え、白色の筋として模様が残る。潮下帯以深の転石表面で見られる。

6. エゾマダラヒザラガイ

Tonicella zotini Yakovleva, 1952
肉帯表面には、明瞭な斑模様が現れる。殻色は変異に富む。潮下帯以深の転石表面で見られる。

7. エゾヤスリヒザラガイ

Lepidozona (Tripoplax) albrechtii (Schrenck, 1863)
殻色の変異は少なく、ほとんどは赤色に黒褐色の斑点が現れる。転石の下に付着している場合が多く、比較的大型になる。

8. ヤスリヒザラガイ

Lepidozona (Tripoplax) andrijaschevi (Yakovleva, 1952)
肉帯の鱗片には細かい縦肋がある。殻色の変異は少なく、ほとんどは茶色。潮間帯中部の転石裏で見られる。

9. ハコダテヒザラガイ

Ischnochiton hakodatensis Pilsbry, 1893
肉帯の鱗片は、オレンジの果肉状。殻色は変異に富む。潮間帯の転石裏に付着している。

10. ウスヒザラガイ

Ischnochiton comptus (Gould, 1859)
肉帯の鱗片は、蛇の鱗状。殻色は変異に富み、模様のパターンがハコダテヒザラガイと似る場合があるが、肉帯の鱗片の違いで、容易に区別できる。潮間帯中部の転石裏で見られる。

ヒゲヒザラガイ科

Mopaliidae

11. ホソヒゲヒザラガイ

Mopalia schrencki Thiele, 1909
肉帯は枝分かれする細い毛で覆われる。潮下帯以深で見られる。

12. ヒゲヒザラガイ

Mopalia retifera Thiele, 1909
肉帯は丈夫な毛で覆われる。肉帯腹面の後端には、橙色の斑点がある。潮下帯以深で見られる。

13. オオヒゲヒザラガイ

Mopalia seta Yakovleva, 1952
肉帯は枝分かれする丈夫な茶褐色の毛で覆われる。潮下帯以深で見られる。

14. ババガゼ

Placiphorella stimpsoni (Gould, 1859)
肉帯は重なり合わないパイプ状の毛で覆われる。潮間帯中部で見られる。

クサズリガイ科

Chitonidae

15. クサズリガイ

Rhysoplax kurodai (Taki & Taki, 1929)
肉帯は光沢のある鱗片に覆われる。潮間帯中部の転石裏で見られる。

ケハダヒザラガイ科

Acanthochitonidae

16. ヒメケハダヒザラガイ

Acanthochitona rubrolineatus (Lischke, 1873)
殻板は小さく、周縁部は肉帯に埋もれる。肉帯は広く、棘束は明らか。潮間帯上部のムラサキインコのベッド付近で見られる。

腹足綱

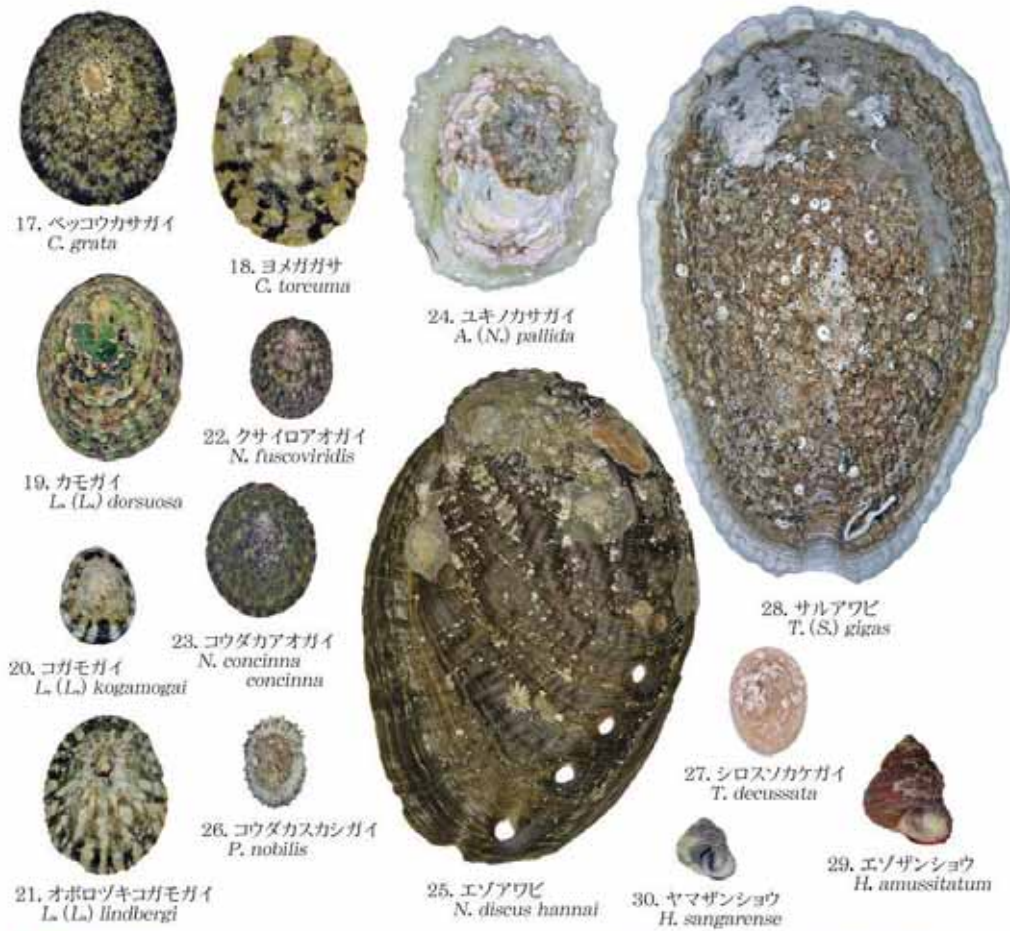
Gastropoda

カサガイ目

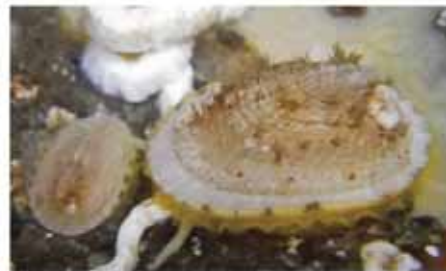
Patellogastropoda

ユキノカサガイ科

Lottiidae



サルアワビ *T. (S.) gigas*
撮影: 2011年6月9日 蘭越町セバチ鼻



シロスソカケガイ *T. decussata*
撮影: 2011年7月13日 蘭越町セバチ鼻



サルアワビ *T. (S.) gigas*
撮影: 2011年6月9日 蘭越町セバチ鼻

カサガイ目 Patellogastropoda・古腹足目 Vetigastropoda

17. ベッコウカサガイ
Cellana grata (Gould, 1859)
殻高は高く、殻頂から周縁部にかけて多数の放射肋が刻まれ、放射肋上に顆粒状の凹凸が現れる。貝殻には暗褐色の斑模様が見れ、この模様は、貝殻の裏面からも確認できる。大きくなると、殻頂付近は摩耗してしまう場合が多い。潮間帯上部で見られる。
18. ヨメガガサ
Cellana toreuma (Reeve, 1855)
殻高は低く、貝殻表面は殻頂から周縁部にかけて深い放射肋が刻まれ、肋の上に大小の顆粒が並ぶ。潮間帯上部で見られる。
19. カモガイ
Lottia dorsuosa (Gould, 1859)
殻高は高く、殻頂は前倒する。潮間帯上部の岩礁帯のうち、日陰になるような場所を好んで、そこに集合して生活する。
20. コガモガイ
Lottia (Lottia) kogamogai Sasaki & Okutani, 1994
殻高は高く、三角形に近い。潮間帯上部で見られる。
21. オボロヅキコガモガイ
Lottia (Lottia) lindbergi Sasaki & Okutani, 1994
殻頂から縁辺部にかけてリング状の成長線が明瞭に確認できる。貝殻表面の色彩は、変異が多い。近縁種のコモレビコガモガイは、殻頂から周縁部に向かって放射状の肋が見られる。潮間帯上部で見られる。
22. クサイロアオガイ
Nipponacmaea fuscoviridis (Teramachi, 1949)
殻頂は低く、前方に寄る。潮間帯上部で見られる。
23. コウダカアオガイ
Nipponacmaea concinna concinna (Lischke, 1870)
殻頂はやや高く、前方に寄る。殻色の変異は、この類としては、少なく、全面が暗緑色のタイプがほとんど。潮間帯上部で見られる。
24. ユキノカサガイ
Niveotectura pallida (Gould, 1859)
殻高は変異に富み、高くなる場合や低くなる場合がある。主に、歯舌で石灰藻を削って食べることから、磯焼けの回復に貢献する可能性があると考えられている。潮間帯中部で見られる。

古腹足目
Vetigastropoda
ミミガイ科
Haliotidae

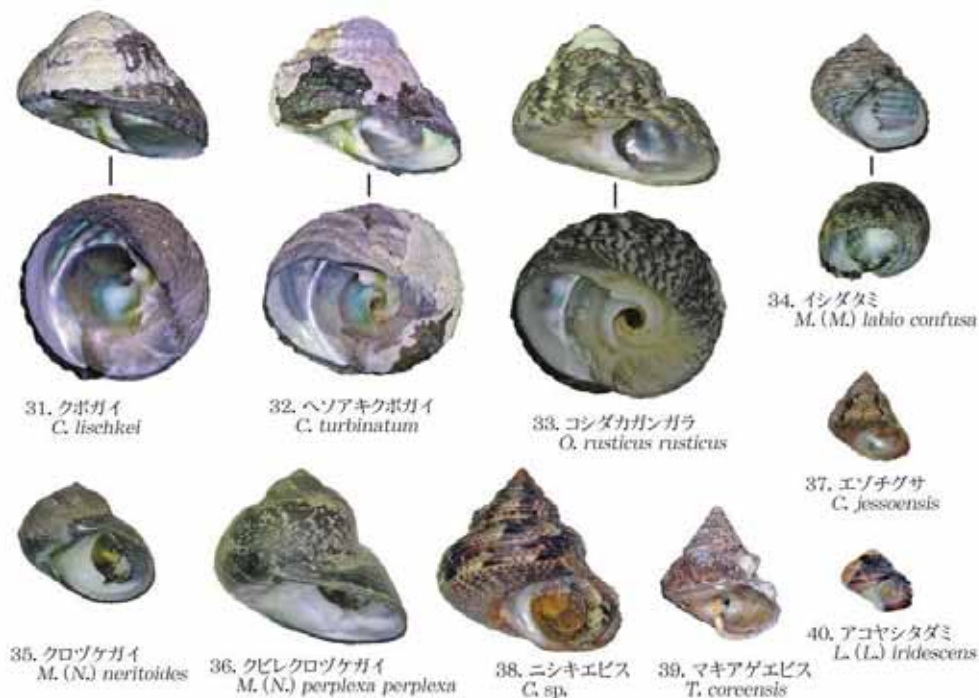
25. エゾアワビ
Nordotis discus hamai (Ino, 1952)
クロアワビの北方型で、貝殻表面の凹凸は顕著に現れる。潮下帯以深で見られる。本種を南方で飼育すると、クロアワビ型になる。

スカシガイ科
Fissurellidae

26. コウダカスカシガイ
Punctrella nobilis A. Adams, 1860
貝殻はカサ型で、殻頂部に穴が開く。殻頂から周縁部へ向かって、強い等間隔の肋が見られる。潮間帯中部の岩礁に付着している。
27. シロスソカケガイ
Tugali decussata A. Adams, 1852
殻高は低く、後ろ寄り。殻頂までの切り込み帯は尾根状に盛り上がる。殻表は放射肋と成長肋が交わり、布目状になる。潮下帯以深で見られる。
28. サルアワビ
Tugalina (Scelidotoma) gigas (Martins, 1881)
貝殻は前後に長く、前方に向かって、やや細くなる。軟体部の色に変異があり、赤または黄色になる。切り込みの湾入は成貝では弱く、幼貝では明確。潮間帯中部で見られる。

ニシキウズガイ科
Trochidae

29. エゾザンショウ
Homalopoma amussitatum (Gould, 1861)
貝殻表面は、横肋と成長線が交わり、布目状となる。潮下帯以深で見られる。
30. ヤマザンショウ
Homalopoma sangarense (Schrenck, 1862)
貝殻表面は螺肋のみ。潮間帯中部で見られる。
31. クボガイ
Chlorostoma lischkei Tapparone-Canefri, 1874
臍孔は閉じ、付近は緑色になる。潮間帯中部で見られる。
32. ヘソアキクボガイ
Chlorostoma turbinatum A. Adams, 1853
臍孔は開き、付近は緑色になる。クボガイと比べて、出現頻度は少ない。潮間帯中部で見られる。
33. コシダカガンガラ
Omphalius rusticus rusticus (Gmelin, 1791)
臍孔は開く。殻底は平滑。潮間帯中部で見られる。
34. イシダタミ
Monodonta labio from *confusa* Tapparone-Canefri, 1874
貝殻は厚く、表面は紺色、または赤色の石畳状の模様で覆われる。潮間帯上部で見られる。
35. クロヅケガイ
Monodonta (Neomonodonta) neritoides (Philippi, 1849)
貝殻は厚く、硬い。体層は丸みを帯び、縫合のくびれは不明瞭。比較的波当たりが弱い潮間帯上部で見られる。
36. クビレクロヅケガイ
Monodonta (Neomonodonta) perplexa perplexa Pilsbry, 1889
貝殻は厚く、硬い。体層は丸みを帯び、縫合のくびれは明確。比較的波当たりが強い潮間帯上部で見られる。



クボガイ *C. lischkei*
撮影: 2011年6月6日 蘭越町尻別岬



イシダタミ *M. (M.) labio confusa*
撮影: 2011年6月9日 蘭越町セバチ鼻



クロツケガイ *M. (N.) neritoides*
撮影: 2011年6月10日 蘭越町セバチ鼻



ニシキエビス *C. sp.*
撮影: 2011年6月27日 蘭越町セバチ鼻

古腹足目 Vetigastropoda

れる。

37. エゾチグサ
Cantharidus jessoensis (Schrenck, 1863)
体層はややふくれ、縫合は浅い。臍孔は閉じる。潮間帯中部で見られる。
38. ニシキエビス
Calliostoma sp.
体層は膨れ、やや角になる。貝殻は強い赤色を呈する。殻底は破線状の斑点状。潮間帯下部で見られる。
39. マキアゲエビス
Turcica coreensis Pease, 1860
殻は円錐形で、殻頂は鋭く尖がる。縫合は溝状になる。死殻のみ確認されている。
40. アコヤシタダミ
Lirularia (Lirularia) iridescens (Schrenck, 1863)
貝殻表面は光沢があり、10本前後の螺肋がある。臍孔は狭く開く。海藻上で見られる。
41. キサゴ
Umbonium (Suchium) costatum (Valenciennes, 1838)
貝殻は低円錐形。殻底は平滑。摂餌は、二枚貝類と同様で、ろ過食。死殻のみ確認されている。

吸腔目

Sorbeoconcha

タマキビ科

Littorinidae

42. タマキビ
Littorina (Littorina) brevicula (Philippi, 1884)
貝殻はソロバン玉型で、表面には強い螺肋が3~5本走る。潮間帯上部で密集して見られる。
43. クロタマキビ
Littorina (Neritrema) sitkana (Philippi, 1846)
潮間帯上部で最も普通に見られる。発生様式は直達型で産卵は年1回で寿命は約2年。産卵は春で、転石の下など波当たりが弱い場所で行われる。日本近海において、貝殻表面の彫刻パターンの違いから、3タイプが知られており、蘭越町沿岸で見られるタイプは殻底のみが螺肋で覆われるタイプ。
44. アラレタマキビ
Nodilittorina radiata (Souleyet, 1852)
貝殻は薄く、表面にはコンペイトウ様の凹凸がある。潮間帯上部の飛沫帯に生息しており、産卵期になると、産卵のために、飛沫帯から海水に浸かる潮間帯へ移動する。
45. コウダカチャイロタマキビ
Lacuna (Epheria) decorata (A. Adams, 1861)
貝殻は茶色で、薄く、体層はよく膨らむ。海藻の葉上に生息している。

アキガイ科

Muricidae

46. ヒレガイ
Boreotrophon candelabrum (Reeve, 1847)
ヒレは70度ごとに発達する。潮間帯中部の岩礁で見られる。
47. エゾヨウラク
Ceratostoma inornatus endermonis (Smith, 1875)
カギヨウラクの北方型と考えられている。潮間帯中部の岩礁で見られる。ヒレは水管の先端まで発達する。潮間帯中部の岩礁帯で見られる。
48. オオヨウラク
Ceratostoma inornatum (Recluz, 1851)
ヒレは水管の先端付近まで発達する。潮間帯中部の岩礁帯で見られる。
49. チヂミボラ
Nucella lima (Gmelin, 1791)
殻色は、たいてい茶色だが、灰白色に茶褐色の帯状の色が現れるタイプや、黄色、紫色などの個体も見られる。貝殻形態に見られる変異は多く、それらの変異に対して現在までに多くのシノニムが与えられてきた。肉食性でムラサキインコなどの二枚貝に穴を開けて捕食するが、潮間帯上部に生息する個体は、クロタマキビなどの巻貝も捕食する場合がある。発生様式は直達型。潮間帯上部の岩の窪みに密集して生息している場合が多い。
50. レイシガイ
Thais (Reishia) bronni (Dunker, 1860)
殻は紡錐形、貝殻表面は、丸い結節状の螺肋で覆われる。潮間帯中部の岩礁帯で見られる。
51. イボニシ
Thais (Reishia) clavigera (Küster, 1860)
レイシガイに似るが、たいていの場合、殻口内は黒紫色になる。潮間帯中部で見られる。

エゾバイ科

Buccinidae

52. クロスジムシロ
Hima fratercula fratercula (Dunker, 1860)
貝殻はやや間隔が開くうねった縦肋が発達する。発生様式は直達型。潮間帯中部で見られる。
53. ヒメエゾボラ
Neptunea (Barbitonia) arthritica (Bernardi, 1857)
貝殻は堅く、殻色は暗い灰色、殻頂部は丸みを帯びる。縫合は浅く、体層はよく膨れ、一定の間隔で肩の部分がこぶ状に膨れる。蓋の核は下にある。食用として利用される。

翼舌目

Ptenoglossa

トウガタガイ科

Pyramidellidae

54. クチキレモドキ
Odotostomia desimana Dall & Bartsch, 1906
貝殻は白色で光沢があり、厚質。潮間帯中部の転石



古腹足目 Vetigastropoda / 盤足目 Discopoda / 新腹足目 Neogastropoda /

裏で見られる。

裸鰓目

Nudibranchia

ドーリス科

Dorididae

55. チシオウミウシ
Aldisa cooperi Robilliard & Baba, 1972
全身は橙赤色ないし黄色。軟体表面は顆粒に覆われる。潮間帯中部で見られる。
56. ウミウシの一種
全身は橙赤色。軟体表面は、微小な顆粒で覆われる。潮間帯中部で見られる。
57. イソウミウシ
Rostanga orientalis Rudman & Avern, 1989
全身は橙赤色ないし橙黄色。潮間帯中部の岩礁で見られる。潮間帯中部で見られる。

イロウミウシ科

Chromodorididae

58. カドリナウミウシ
Cadrina japonica Baba, 1937
軟体周縁部は蛍光色になる。潮間帯中部で見られる。

二枚貝綱

Bivalvia

イガイ目

Mytiloida

イガイ科

Mytilidae

59. ムラサキイガイ
Mytilus galloprovincialis Lamarck, 1819
貝殻表面は光沢がある黒い殻皮で覆われる。貝殻は薄い紫色。潮間帯中部の岩礁に付着している。
60. ムラサキイコ
Septifer (Mytilisepta) virgatus (Wiegman, 1837)
貝殻は細長く、厚質。貝殻表面に殻皮を形成しない。潮間帯上部で、密集して岩礁に付着し、ベット状になる。
61. エゾヒバリガイ
Modiolus kurilensis Bernard, 1983
殻は薄く、茶色の厚い殻皮をかぶる。貝殻の周縁部の先端周辺に、厚い殻皮が変形した毛が生える。潮下帯以深の岩礁に付着する。
62. ヒバリガイ
Musculus laevigatus (Gray, 1824)
貝殻は赤紫色で、薄く、薄い殻皮をかぶる。形はほぼ長方形。スガモの根や岩の窪みに生息している。死殻のみ確認している。
63. チヂミマユイガイ
Adula falcatoides Habe, 1955

貝殻は長方形で、厚い殻皮をかぶる。泥岩に穴を開けて生息している。死殻のみ確認している。

フネガイ目

Arcoida

フネガイ科

Arcidae

64. コベルトフネガイ
Arca boucardi Jousseume, 1894
貝殻は前後に長い箱型で、よく膨らむ。殻皮は厚く濃褐色で、毛状になる。潮間帯中部の岩礁に付着している。

シコロエガイ科

Parallelodontidae

65. シコロエガイ
Porterius dalli (E. A. Smith, 1885)
貝殻は、前後に長い楕円型で膨らみは強い。殻皮は厚く、栓皮状になる。潮間帯中部の岩礁に付着している。

カキ目

Ostreoida

イタボガキ科

Ostreidae

66. イワガキ
Crassostrea nippona (Seki, 1934)
貝殻は厚質。殻表の成長脈は粗く、栓皮状になる。潮間帯上部の岩礁に固着する。

イタヤガイ科

Pectinidae

67. アカザラ
Scaechlamys (Azumapecten) farreri farreri (Jones & Preston, 1904)
貝殻表面に鱗片をそなえた太い肋が発達する。アズマニシキの北方型と言われている。潮間帯中部の岩礁に付着している。

ウミギク科

Spondylidae

68. チリボタン
Spondylus cruentus Lischke, 1868
貝殻は不規則な卵型で、やや横長。殻色は変異に富むが、たいていは赤色。右殻には、多数の放射肋が発達し、その上に棘がまばらに生じる。死殻のみ確認している。

ナミマガシワ科

Anomiidae

69. ナミマガシワ



ヒメエゾボラの卵囊 Egg mass of *N. (B.) arthritica*
撮影: 2011年6月27日 蘭越町セバチ鼻



ヒレガイの産卵 Spawning of *C. burnetti*
撮影: 2011年6月27日 蘭越町セバチ鼻



ヒメエゾボラ *N. (B.) arthritica*
撮影: 2011年6月9日 蘭越町セバチ鼻



オオヨウラク *C. inornatum*
撮影: 2011年6月9日 蘭越町セバチ鼻



エゾヨウラク *C. inornatus endermonis*
撮影: 2011年6月6日 蘭越町尻別岬



クチキレモドキ *O. desimana*
撮影: 2011年6月9日 蘭越町セバチ鼻



アラタマキビ *N. radinata*
撮影: 2011年6月10日 蘭越町セバチ鼻



カリナウミウシと卵囊 *C. japonica* and eggmass
撮影: 2011年6月10日 蘭越町セバチ鼻

盤足目 Discopoda / 新腹足目 Neogastropoda / 翼舌目 Ptenoglossa・裸鰓目 Nudibranchia



55. チシオウミウシ *A. cooperi* 撮影: 2011年6月9日 蘭越町セバチ鼻



56. ウミウシの一種
撮影: 2011年6月9日 蘭越町セバチ鼻



57. イソウミウシ *R. orientalis*
撮影: 2011年6月9日 蘭越町セバチ鼻



58. カドリナウミウシ *C. japonica* 撮影: 2011年6月27日 蘭越町セバチ鼻

裸鰓目 Nudibranchia



イガイ目 Mytiloidea / カキ目 Ostreoida / フネガイ目 Arcoidea / マルスダレガイ目 Veneroidea / オオノガイ目 Myoidea / ウミタケガイモドキ Pholodomyoidea

貝殻は不規則な類円形で薄い。左殻はやや膨らみ、*Clinocardium (Keenocardium) californiense* (Deshayes, 1839)
桃色や黄色となる。死殻のみ確認している。

マルスダレガイ目

Veneroida

キクザルガイ科

Chamidae

70. イチゴキクザルガイ

Chama "fragum Reeve, 1846

貝殻表面は、椀皮状。右殻で岩礁に固着する。潮下帯以深で見られる。

フタバシラガイ科

Ungulinidae

71. ウソシジミ

Felaniella (Felaniella) usta (Gould, 1861)

貝殻は薄質で、膨らみは弱く、殻皮で覆われる。死殻のみ確認している。

72. ヤエウメノハナ

Phlyctiderma japonicum (Plisbry, 1895)

貝殻は垂球形で良く膨らみ、白色で薄い。泥岩に穴を開けて生息している。死殻のみ確認している。

ザルガイ科

Cardiidae

73. トリガイ

Fulvia mutica (Reeve, 1844)

貝殻は球形で薄質。殻表はほぼ平滑で、毛状の殻皮が生えた、弱い放射肋に覆われる。食用となり、1個体 1,000 円程度で取引される。死殻のみ確認している。

バカガイ科

Mactridae

74. バカガイ

Mactra (Mactra) chinensis Philippi, 1846

貝殻は亜三角形で、薄質。殻表は平滑で、光沢がある。市場では、アオヤギと呼ばれて取り扱われている。死殻のみ確認している。

ニッコウガイ科

Tellinidae

75. サラガイ

Megangulus venulosus (Schrenck, 1862)

貝殻は長楕円形で、やや厚い。殻表は白色であるが、内面は、黄色または紅色。死殻のみ確認している。

76. サクラガイ

Nitidotellina hokkaidoensis (Habe, 1961)

貝殻は前後に長い卵形で薄く、桃色。死殻のみ確認している。

77. ヒメシラトリ

Macoma incongrua (Martens, 1865)

殻は卵形で、後端は右にねじれる。貝殻は白色、表面はやや厚い殻皮で覆われる。死殻のみ確認している。

シオサザナミ科

Psammobiidae

78. エゾイソシジミ

Nuttallia ezonis Kuroda & Habe, 1955

貝殻は楕円形で、膨らみは弱い。貝殻表面は、やや厚い殻皮で覆われる。死殻のみ確認している。

マルスダレガイ科

Veneridae

79. カガミガイ

Phacosoma japonicus (Reeve, 1850)

貝殻は白く、厚く、膨らみは弱い。死殻のみ確認している。

80. アサリ

Ruditapes philippinarum (Adams & Reeve, 1850)

貝殻は楕円形で、色彩パターンは変異に富む。殻頂から周縁部へ肋が現れ、後方ほど肋の隆起は強く、間隔は広くなる。死殻のみ確認している。

81. マツカゼガイ

Irus mitis (Deshayes, 1854)

貝殻は長楕円形で厚く、良く膨らむ。殻質は厚く、丈夫。死殻のみ確認している。

82. コタマガイ

Gomphina melanaegis Romer, 1861

貝殻の後端は尖がり、膨らみは弱い。死殻のみ確認している。

ウミタケモドキ目

Pholadomyoidea

オキナガイ科

Laternulidae

83. オビクイ

Agriodesma navicula (Adams & Reeve, 1850)

貝殻は薄く、やや膨らむ。潮下帯以深の岩礁に付着している。

ニオガイ科

Pholididae

84. オニカモメガイ

Penitella kamakurensis (Yokoyama, 1924)

貝殻は白色、よく膨らむ。柔泥底に穴を掘って生活する。このグループは食用とされ、旨い。死殻のみ確認されている。

3. 貝類から見た蘭越町沿岸の環境

蘭越町沿岸の海には、南から暖かい対馬暖流が流入します。北海道西岸に流れ込む対馬暖流は、その一部が津軽海峡を通過して、津軽暖流となって太平洋側へ流れ込みます。そのため、蘭越町沿岸の対馬暖流の勢力は、やや弱まっています。蘭越町の北側に位置する小樽近海から報告された貝類リスト（能島，1937；伊藤，1987）において、暖かい海を好む種類（暖流系種）が見られるのは、暖流の影響を受けた結果と言えます。一方で、冷たい海を好む種類（寒流系種）も生息するのは、その暖流の勢力が弱まっていることを裏づける1つの証拠と言えます。蘭越町は小樽市より南に位置しているため、小樽近海から報告された貝類リスト（能島，1937；伊藤，1987）より、暖流系種は多く、寒流系種は少ないと予想されます。

蘭越町の浅海域において、生息する貝類を調査した結果、合計84種類の貝類を確認しました。うち、寒流系種は25パーセント、暖流系種は67パーセント、アサリのように全国的に分布する広領域種は8パーセントを占めていました。今回の調査によって、生息範囲の北限及び南限が蘭越町沿岸に更新される種類がいくつか確認されました。

尻別川河口の北側に位置する砂浜海岸には多くの貝殻が打ち上げられますが、どれも小型個体で、ほとんどの種類は未成熟のまま、打ち上げられています。これは、尻別川の淡水が一時的に大量に海へ流入することによって、海洋中の塩分が低くなる状態が生じ、そのような環境に耐えられなくなり、死に至り、打ち上げられた結果と考えられました。よって、尻別川河口北側の砂浜海岸では、そこで一生の生活史を送っているとは限らず、他の場所から、浮遊幼生が運ばれ、ここに着底し、一時的に成長はするものの、一時的な海水の淡水化によって、成熟前に死に至る場合が多いと推測されました。この仮説を検証するには、海洋物理的な調査が必須で、今後、近海における水の流れや、塩分の測定が課題となります。

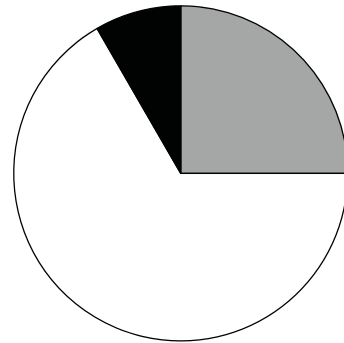


図1. 蘭越町沿岸に生息する貝類の分布特性。■は寒流系種（25%）、□は暖流系種（67%）、●は広領域種の割合（8%）を示す。

引用文献

伊藤 潔. 1987. 3. 無脊椎動物. In: 小樽海岸の自然調査報告書. pp. 19-115. 小樽市博物館, 札幌.
能島正一. 1937. 忍路産貝類目録. 水産学雑誌, 40: 45-52.

北海道「蘭越町貝の館」20年のあゆみ
The 20 Years History of
Shellfish Museum of Rankoshi, Hokkaido, Japan.

2011年9月 第1版 第1刷発行

編著 蘭越町貝の館

Shellfish Museum of Rankoshi, Hokkaido, Japan
<http://www.town.rankoshi.hokkaido.jp/kainoyakata/>

発行者 蘭越町
〒048-1392 北海道磯谷郡蘭越町蘭越町 258 番地 5

非 売 品

